

# 千年の森便り No.145

2015.8.31

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.digi2.jp/>

事務局長 伊藤道男

[sennenomori@hotmail.co.jp](mailto:sennenomori@hotmail.co.jp)

## 活動の記録

8月30日(日) 小雨

参加は新井通子、伊藤、鶴沢、大原、苅米、久我夫妻、坂本、田島、中田一家(6名)、成沢、根本、福島、真鍋、村野、山口；会員21名、体験参加の及川氏とインターンシップの勝・木村氏を含め合計24名。

雨が降ったり止んだりの中途半端な天気だったが、ちば里山カレッジからのインターンシップのお二人の参加もあり、賑やかでした。メインの活動は相対照度調査で、途中で雨が降ったがなんとか終了しました。この日も森は沢山のキノコに恵まれ、キノコ狩りを楽しみ、植物や昆虫、野鳥など観察を手分けして行い、整備班の骨折りで、仮設物置も完成に近づきました。雨の中、参加の皆さまお疲れ様でした。また慣れない作業に参加いただいたインターンシップのお二人もお疲れ様でした。(真鍋)



雨の豊英島に24名参集し働きました

### ○相対照度調査

雨がポツポツと落ち始める中、10:00~10:30にコナラ伐採地を中心に相対照度調査を行いました。測定した箇所は、コナラ伐採地が20点(A-1~D-5)と、千年広場、コナラ更新林、ヒメコマツ植栽地(コナラ更新林、岬)合わせて24地点です。吊橋の上の照度を開放地の照度(100%)とし、これに対する各地点の相対照度を求めました(表1)。コナラ伐採地の20地点の相対照度は、最大が63%、最小が21%、平均が42%でした。D列と5の列がやや相対照度が低い傾向でした(表2)。(福島)

表1 島内5地点の相対照度の変化

測定箇所	相対照度 (%)						
	2012.7.16 着葉期	2013.2.17 落葉期	2013.7.15 着葉期	2014.2.23 落葉期	2014.7.21 着葉期	2015.2.15 落葉期	2015.8.30 着葉期
千年広場中央	16.4	58.4	16.4	63.9	19.3	71.5	29.7
コナラ更新林の苗畑	14.0	61.1	21.7	56.7	22.2	67.6	8.8
コナラ更新林ヒメコマツ	42.0	75.3	58.1	77.3	35.7	76.6	43.1
岬ヒメコマツ	22.5	54.6	26.6	44.4	27.7	66.9	33.1
コナラ伐採地				71.9	64.5	82.2	41.9

コナラ伐採地は、2015年2月以降20地点の平均値

表2 コナラ伐採地の相対照度 (%) (2015.8.30)

	1	2	3	4	5
A	53.2	60.2	62.9	44.4	28.2
B	43.3	54.2	61.5	55.8	41.5
C	28.7	31.2	49.7	47.6	32.4
D	21.3	26.9	35.5	35.4	24.4

### ○仮設物置

炭焼き窯の跡地を利用した仮設物置が大原さんの尽力で完成にだいぶ近づいてきました。骨組みはほぼ完成し、次回半割の竹を載せ屋根が出来れば完成です。(伊藤)

## ○インターンシップ参加

ちば里山カレッジの受講生から、木村さん（木更津市）、勝さん（君津市）のお二人がインターンシップで体験参加されました。慣れない相対照度調査に参加してもらった後は、島内を一回りご案内した。当会のこだわりである生物多様性保全の森づくりについて、希少種と鹿の関係、ギャップ更新の方針、ヒメコマツ植栽を受け入れた経緯など具体例を挙げながら説明しました。（伊藤）

## ○キノコ観察

森はきのこでいっぱいでした。特にベニイグチ、アカヤマドリ、イロガワリが沢山ありました。皆が集めた竹テーブルいっぱいのキノコを村野さんが同定したところ、以下の20種、他にも多数ありました。（真鍋）



ベニイグチ



セイタカイグチ



アカヤマドリ



ハイカグラテングタケ

ベニイグチ、アシナガイグチ、セイタカイグチ、キクバナイグチ、キイロイグチ、フトウニガイグチ、コガネヤマドリ、ニガイグチの仲間、アカヤマドリ、ヤマドリタケモドキ、イロガワリ、ウコンハツ、ケショウハツ、ハイカグラテングタケ、ドクツルタケ、テングタケ、コテングタケモドキ、シロオニタケ、フクロツルタケ、ウスキテングタケ、ほか多数。



子供達も熱心に観察し撮影



美しいベニイグチを手に



テーブルにはキノコが溢れ



村野さんの同定と解説

## ○植物観察

ギャップ更新林ではシラヤマギク、ナガバノコウヤボウキ、アキノタムラソウ、オトコエシが咲き誇っていました。また蕾が出来たサジガンクビソウが何株か認められました。オオバノトンボソウ、オカトラノオは種がきっちり出来ていました。（新井通子）

ギャップ更新林にアカメガシワ、カラスザンショウ、ヌルデなどのパイオニアが旺盛に生育してきた。そろそろ手を入れる必要があるが、しっかり実生の調査をして慎重に対応したい。（伊藤）

1時間居残りして成沢さんと一緒にホコラ山から西側の湖岸沿いをまわり、ナツエビネを探索しましたが、残念ながら確認できませんでした。崖下にはタマアジサイが多数咲いていました。（福島）

通路脇にシャシャンボが1房実を付けていました。7月に加藤恵美子さんが見つけたナツエビネらしい株を丹念に探しましたが見つからず残念でした。1株だけ生き残って実を付けていたツチアケビは黒変して枯れ、実も黒く干からびて、今年も地上部は全滅です。豊英島のツチアケビ13年間の盛衰を、会のホームページ <http://toyofusajima.digi2.jp/>掲載の千年の森便り№145に添付しますので、関心ある方はご覧下さい。（真鍋）



パイオニアが旺盛なギャップ更新林



黒変し全滅したツチアケビ

## ○昆虫観察記録

小雨が降り続く中、虫の姿は少ない。セミの声は相変わらず賑やかだが、コオロギの声が秋を感じさせてくれる。帰る頃になり、雨が上がり、トンボが飛び始めた。一体どこに隠れていたのだろうか？「1時間居残りさせて」と、お願いし観察を続けた。ありがとうございました。

### スミナガシ

(千葉県重要保護生物B)  
アワブキの樹上を黒いチョウが素早く飛ぶ。「スミナガシだ！」時々葉にとまっては産卵しているようだ。



### ヒナカマキリ♀(2cm)

智貴君が、キノコの傘の下にいた小さなカマキリを見つけてくれた。カマキリも雨宿り？  
メスは成虫でも翅がない。



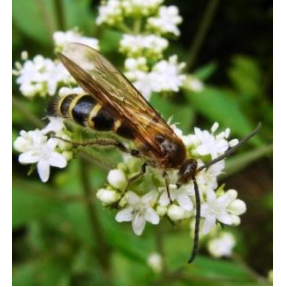
### オスグロトモエみ

オスは黒っぽく「巴」の紋がある大型の蛾。これはオスだが、翅がボロボロのメスもいた。メスは翅の模様が全く違う。



### キンケハラナガツチバチみ

雨の中、オトコエシの花にたくさん来ていた。メスは触覚が短く、もっと金色の毛がありゴージャス。



(他に観察された昆虫) ホソミオツネントンボ、シオカラトンボ、ノシメトンボ、オオゴキブリ幼虫、モリチャバネゴキブリ幼虫、アカサシガメ幼虫、ミンミンゼミ、アブラゼミ、ツクツクボウシ、ニイニイゼミ、アオバハゴロモ、ベッコウハゴロモ、ツマグロオオヨコバイ、キマワリ、オオセンチコガネ、コガタスズメバチ、ヒメスズメバチ、トラマルハナバチ、セグロアシナガバチ、ムネアカオオアリ、ウシアブ、シオヤアブ、サキグロムシヒキ、ムラサキシジミ、キタキチヨウ、ルリタテハ、サトキマダラヒカゲ、ヒメウラナミジャノメ、イチモンジセセリ、ヒメキマダラセセリ、マエキトビエダシャク、ヒゲブトコブアツバ、ベニスジヒメシャクの一種、ヨツボシホソバ幼虫 (田島)

## ○ヘビの記録

6月の活動日に続き、今回もヒバカリを確認しました。千年広場の近くにいたので、もしかすると前回と同じ個体かもしれません。写真でヒバカリが木に乗っているのは、木の上に逃がしたためです。自分から木に登ったわけではありませんので念のため。(福島)



ヒバカリと撮影中の智貴君

## ○野鳥記録

キジバト2+囀り カケス声 ハシブトガラス声 ヒヨドリ声 エナガ声 の5種に智貴君がシジュウカラ又はヤマガラのどちらか不明ながら声を聞いているので、これを加えて6種でした。蝉の声に小鳥の声がかき消されたにしても非常に寂しい記録でした。常連のトビ、カワウも今回は観察できていません。

因みに2010年からの8月の記録を抜粋してみると 2010(10) 2011(12) 2012(11) 2013(8) 2014(5) 2015(6) と減少傾向です。(坂本)

## お知らせ

### ○次回活動日 9月23日(水、秋分の日)

シカ個体数調査、仮設物置整備、ほこら山危険木伐採、植物調査、野鳥調査、昆虫調査など計画しています。県民の森駐車場9時30分集合です。